2004.2.14

第１回里山勉強会

主催者挨拶

金親 博榮

①　仮称・里山シンポジウム実行委員会のスタートについて。

　昨年１２月１９日、当初は、知事による認定書の交付式に並行して開催する行事の予定でありました。
　県みどり推進課、市民団体、地主による構成　農地・山林地主の参加が少ない中で、選ばれてしまった委員長役です。
　精一杯こなす努力をしたが、現状どこまで、その役をこなせるか。

② 千葉県の身近な農村環境である「里山」は、
　樹林、に田畑をも含めた広い意味合いを持つ私たちの住む、国土環境の一部である。
　この場所の現状は、都市部の住民はもとより、農村部の住人が、良しと思える状況にない。良くないと思いつつも、その対策が、これまで充分に実施されて来なかった。

③　木材生産の場として、数々の理由から、成立しなくなり、３０年が経過しました。
　田圃も同様、畑も耕作放棄。ゴミの不法投棄等々の問題山積です。
里山が、産業の場として再構築されるにはどのような道があるのでしょうか。
　木材や農産物の生産のほかに、新たらしい利用の場としての価値効用を再認識し、国民の各層、各分野の、幅広い人々が、集まり、国民の生きる大地としての里山について、意見を交わし、相互の認識を深めて、次のステップに進む。

④　きょうは、国の施策の方向を、農水省、林野庁のお二方に、ご出席を頂き、お話しを伺いながら、進めます。
　いろいろな分野の方々のご意見を戦わせる場となり、本日のこの勉強会が、千葉県での新たな里山再生のスタートとなり、５月の里山の日、１周年に向けての第一歩として、長時間に渡りますが、ご出席の全員の方々が熱意をもって、ニューフロンテイア「里山」に臨んで下さる様お願いして、主催者の挨拶と致します。